

(新) 東アジア酸性雨等環境管理に向けた枠組み構築事業費

40百万円(0百万円)

地球環境局環境保全対策課

1. 事業の概要

本年7月の中央環境審議会答申において、国際環境協力の今後の展開に関しては、我が国が東アジアの環境管理の仕組みの改善に重点を置いて、リーダーシップを発揮すべきとの方向性が示された。このためには、まず、東アジア地域共通の懸念事項である酸性雨等の越境大気汚染問題に対して、東アジア酸性雨モニタリングネットワーク(EANET)等、既に積極的に進められている活動を基盤として、先導的に環境管理の枠組みを構築することが有意義である。

EANETについては、本年11月に新潟で開催される政府間会合において、設立の法的基盤の強化(地域協定化)を目指した検討の開始と、中期的な取組に関する計画について合意する予定である。

このため、来年度からは、協定化等の枠組み強化の検討を促進するため、協定化へ向けた戦略検討や、協定化に向けたより体系的な活動の展開を進める。

2. 事業計画

EANET協定化等については参加国間の様々な意見があることから、関係国からなる議論をリードするグループを設置し、戦略の検討及び議論促進を図る。また、各国からの排出量把握及びその影響の把握及び推定について、各国協働で取り組むことにより、協定化の必要性を示す知見を共有し、かつ、作業の協働実施により、各国の環境管理向上に資する。

	H18	H19	H20	協定
議論をリードするグループの形成と戦略検討	—————			定
協定化の必要性等に係る知見共有事業 ～各国環境管理能力向上にも資する	—————			化
排出量把握・精度向上等技術指導 東アジア各国の 研究者による汚染物質の越境移動に係るシミュレーション 結果の比較 経済損失等の影響に関する共同研究	—————			交渉

3. 施策の効果

酸性雨等への各国の対応を改善することにより、東アジア地域における環境管理能力の向上に寄与することが期待できる。

# 東アジア酸性雨等環境管理に向けた枠組構築

新規予算要求  
拠出金等対応

